

# ハブに気を付けよう！ - 咬症者100名を切る -

沖縄県におけるハブ咬症件数(ハブ・ヒメハブ・サキシマハブに咬まれた人の数)は復帰前の500人台をピークに減少しており、2001年以降は100件を切るようになりました(図2)。特に2002年と2003年は93件と統計を取り始めてから最も少ない咬症件数でした。2003年の咬症内訳はハブ63件、ヒメハブ7件、サキシマハブ23件となっています。治療技術の向上や救急体制の整備などにより、死亡事例は少なくなりました。近年では、1999年に1件起こって以降、発生していません。

ハブに咬まれる事故は少なくなっていますが、沖縄県内のハブ生息地での農作業や山野で野外活動を行う際には、ハブに咬まれるかもしれないと、精神的に受けるプレッシャーはいまだに大きなものがあります。

ハブ咬症の起こる場所は30~40%が畑、約30%が屋敷内や家屋内、約15%が道路と、人間が日常生活している場所で多く発生します(図4)。これはハブの主な餌がネズミであることに原因があります。ネズミを求めて、住宅内や耕作地にハブが入り込んでくるからです。

季節としては初夏と秋に多く発生します。これは変温動物であるハブが活動しやすい涼しい時期であることが原因と考えられます。なお、冬も暖かい沖縄では年中ハブ咬症が起こります(図1)。

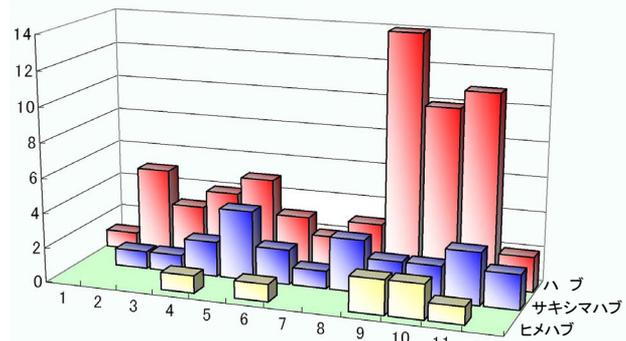


図1. 2003年月別ハブ咬症件数

ハブは夜行性で日中は、穴の中や草の陰などで休んでいます。それにもかかわらず、ハブ咬症は日中に多く発生します。これは、咬症の30~40%が畑で発生しており、日中の農作業中に作物や草の陰にいたハブに気づかずに咬まれていることによります。

草地や山林での咬症も人間の活動時間帯の日中に発生します。一方、道路での咬症は夜間多く起こります。暗い道を歩いているときに、ハブに気付かずに咬まれていると考えられます。夜道を歩くときは懐中電灯を持ちましょう。屋敷内や家屋内での咬症は昼夜のいずれでも起こります。これは、夜間に侵入してきたハブに侵入直後に咬まれる場合と、侵入後、物陰に隠れていたハブに日中咬まれている場合とが考えられます。

このようにハブ咬症は様々な場所・時間帯で発生しています(図3)。これからの季節、十分に気を付けましょう。(ハブ研究室)

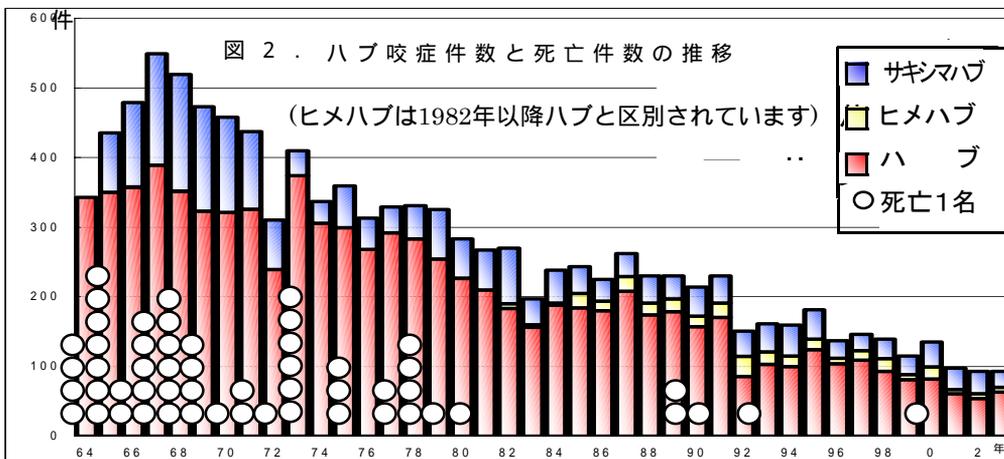


図2. ハブ咬症件数と死亡件数の推移

(ヒメハブは1982年以降ハブと区別されています)

図4. 2003年場所別ハブ咬症者数

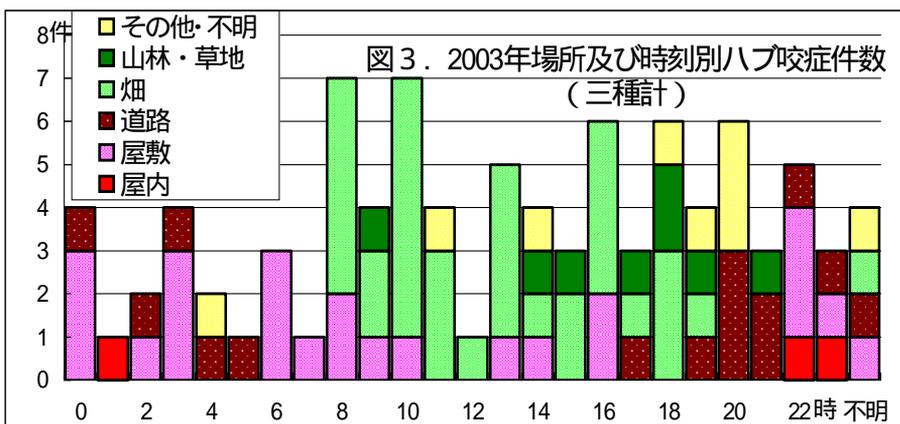


図3. 2003年場所及び時刻別ハブ咬症件数 (三種計)

